

6月市議会定例会

開発公社 早急に健全策

第百二十八回市議会定例会は、いずれも原案とおり可決されました。六月十三日から二十三日までの十日間の日程で開かれました。提出された議案は、国民健康保険税条例の一部改正など十二件で、除税条例の一部改正など十二件で、

予想上回る赤字解消

国保税条例の一部改正 普通高校開校には努力

財政再建一年目の成果が、出納閉鎖によって具体的に現われる六月市議会定例会。財政再建に伴う開発公社のあり方が一般質問の中心となりましたが、小笠原市長は六月定例会市議会の開会初日（十三日）の冒頭に、

『五月末の出納閉鎖による、五十一年度一般会計の決算見込で、予想を上回る赤字となりました。当初の財政再建目標は達成されたことになりました。しかし、公債費のしめる割合は大きくなり、公債費の割合は高く、金利のしめる割合が高いという状況になっています。他の類似の市では指定金融機関が南国市と同じであるのに、南国市よりは何厘か安くなっています。金利の引き下げについて折衝するつもりはないか、あるいは指定金融機関を金利の安い所に変わるつもりはないか、と質問したのに対して、

市長は、『指定金融機関を決定するについては経過があり、今までの無理なこともお願いしてきており、変えるつもりをしておられます。金利の問題では、詳細については折衝中ですが、金利が下がることになりました。』と述べました。

また、空港問題は、先に知事ら県側と地権者との話し合いがあり、地価の補償価格を提示する段階に入りました。執行部もそれ相当の心がまえをする必要があり、同和対策事業特別措置法は、五十三年度までですが、延長にはいっそうの努力をしないと考えています。四国のあるいは全国の市長会などでも前向きに表明して、議決もされています。

開発公社についてどう解決するかという問題は、いよいよ今年が解決の年になる、といえます。と、市政に対する積極的な決意を述べました。

一般質問

永年勤続で五議員を表彰

議会議長に先立ち、四国・全国市議会議長会から、永年勤続議員の表彰がありました。四国市議会議長会からは岩原栄喜（十六年以上）議員、沢村武一（二十四年以上）議員。全

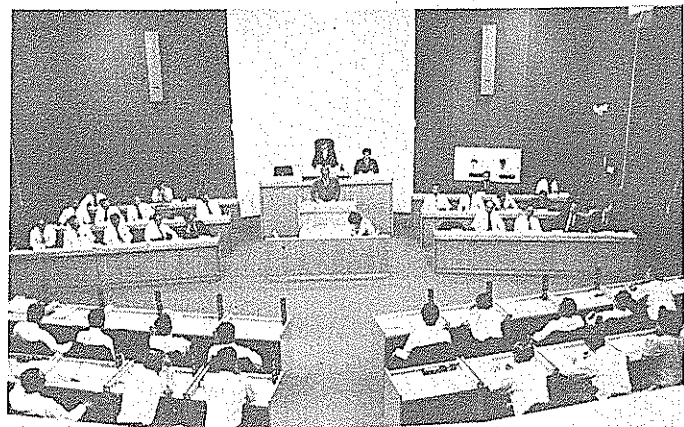
今回の市議会では、財政再建をするうえでポイントとなる開発公社問題が中心となりました。

『財政再建の初年度は、予想を上回る赤字解消となり、当初の目的を達成できたと言います。ところが一般会計の片がわりをさせてきた開発公社の赤字の手直しをしなければならぬという状況になっています。それについてどう考えているか。』という質問に対し、

市長は、『五十一年度一般会計決算見込では、四年度に、予想を上回る赤字解消となり、一億二千万円の赤字解消となり、これは財政再建審議会の指導や、市民や職員の協力と犠牲を払っていただいたおかげです。今年も、過去一年間の成果をふまえて、財団法人開発公社と市土地開発公社を健全な姿にもとすよう努力をしたいと思います。』と述べました。

また、『南開発公社については、五十一年度末で、財団法人開発公社に六億五千万円、市土地開発公社に二億六千万円、計二億八千万円の負債があります。このうち一般会計で引き取らなければならないのが十四億六千万円あります。そして、売却処分が可能なのが十二億八千万円あります。このため毎年金利を二億四千八百万円を払っています。これらを処分できないと二十七億五千万円が一般会計の重荷となります。この際一日も早く対策を立て、健全運営をしないと大変なことになります。再建策はいつ取り組んでいくつもりか。』とたたきつけたのに対して、

市長は、『開発公社は、市を助け



と、述べました。その他では、公債費のしめる割合が大きくなること、金利のしめる割合が高いこと、という状況になっています。他の類似の市では指定金融機関が南国市と同じであるのに、南国市よりは何厘か安くなっています。金利の引き下げについて折衝するつもりはないか、あるいは指定金融機関を金利の安い所に変わるつもりはないか、と質問したのに対して、

市長は、『指定金融機関を決定するについては経過があり、今までの無理なこともお願いしてきており、変えるつもりをしておられます。金利の問題では、詳細については折衝中ですが、金利が下がることになりました。』と述べました。

一般質問では、財政再建に伴う開発公社の健全化の問題他に、黒潮ライン、漁港、北部協業みかん園などがありました。（通告議員は十五名）

黒潮ラインは、『方線については、住民の要望は防波堤の北側というところでしたが、後川にそった線になっていました。保育所、学校それに農作業などが分断されるのは住民の意向に反することです。これに対し、『地元の利益、意見を全部が全部取り入れると長びくこととなります。防波堤付近より後川付近で農業を営んでおり、また県側の試案としては直線が短かく結ぶというところであり、後川沿いのルートが適当だと思います。』

漁港問題では、『南国市には漁港がなく、南国市の船は高知港のすみの方で肩身の狭い思いをしています。市内には、漁民が自由に使える漁港が必要です。これに對し、『現在漁港問題は小規模ですが、近いうちには一と考えています。なお、この漁港は市内でなくとも、近くの漁港でもよいのではないかと考えています。』

北部協業みかん園については、『南国市発足当時、農林省の指導で始めたものに県市が賛成したものです。市内には四カ所ありますが経営難になってきています。救済対策はどうなっているのか。』

黒潮ライン 後川ルートが適当

の意味でできたもので、こんな状態になったのもある程度はやむをえなかったと言います。困難な問題で、大胆な財政処分についても検討しており、関係方面と折衝中です。しかし、内容については相手もあることだし、言えない状態です。

開発公社の再建策については、遅れていて申し訳なく思っています。早く方針を立て、実施に移したいと思っております。いましばらく見守ってほしいと思っております。

『方線については、住民の要望は防波堤の北側というところでしたが、後川にそった線になっていました。保育所、学校それに農作業などが分断されるのは住民の意向に反することです。これに対し、『地元の利益、意見を全部が全部取り入れると長びくこととなります。防波堤付近より後川付近で農業を営んでおり、また県側の試案としては直線が短かく結ぶというところであり、後川沿いのルートが適当だと思います。』

漁港問題では、『南国市には漁港がなく、南国市の船は高知港のすみの方で肩身の狭い思いをしています。市内には、漁民が自由に使える漁港が必要です。これに對し、『現在漁港問題は小規模ですが、近いうちには一と考えています。なお、この漁港は市内でなくとも、近くの漁港でもよいのではないかと考えています。』

北部協業みかん園については、『南国市発足当時、農林省の指導で始めたものに県市が賛成したものです。市内には四カ所ありますが経営難になってきています。救済対策はどうなっているのか。』

土佐山田町も加入 香南清掃組合に

土佐山田町がゴミ処理場の老朽化が著しく、故障が続出していることから炉の限界を見越して、香南清掃組合の加入を希望していた土佐山田町の組合入りが今議会決定しました。

これについては、八日目の質疑でも、土佐山田町から流れてくるゴミなどをめぐって、南三區、北三區、古市、比江、廿枝の関係住民が土佐山田町の加入について難色を示していることが言われましたが、関係住民の賛同を得たため議決したものです。

土佐山田町を加入させ、香南清掃組合を効率的に使うことにより、南国市の財政負担が減ることになります。南国市の負担割合は、五七割から四五割に下り、約一千万円軽くなります。なお、今までは負担金約七千万円支払って

